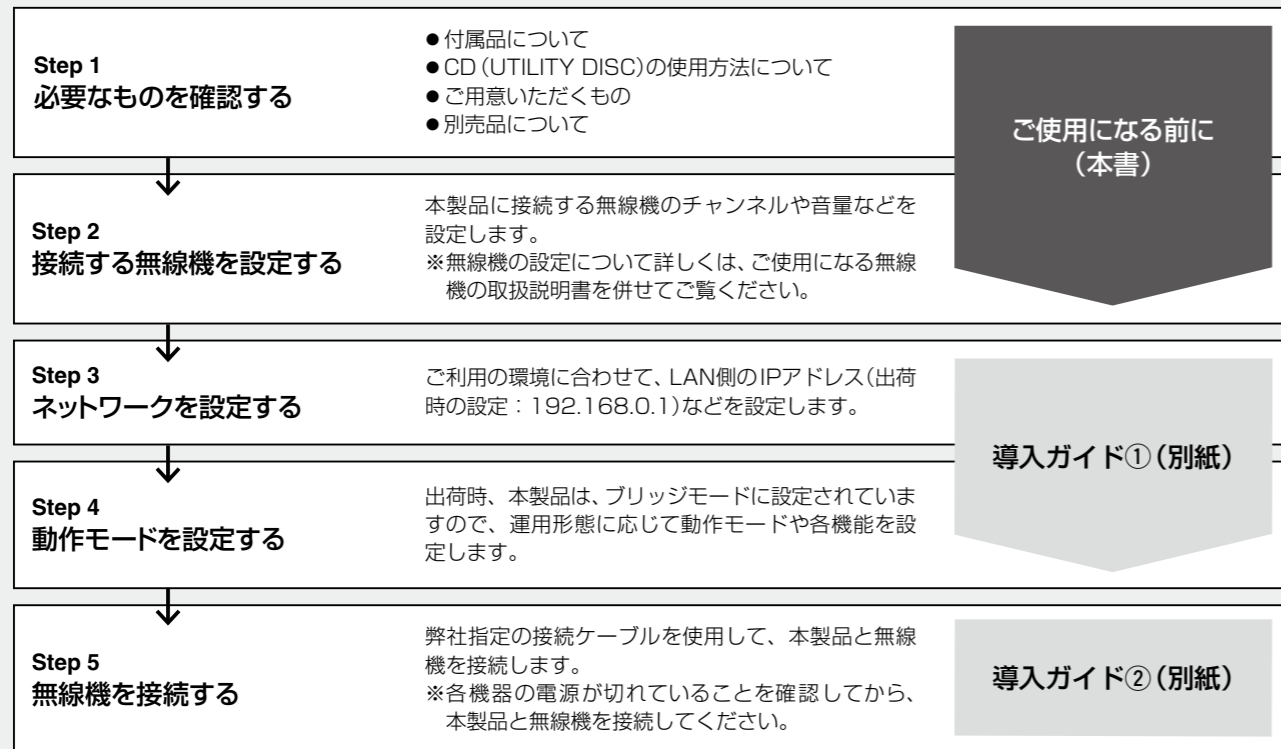


このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
本書では、基本的な設定を説明しています。
本書をお読みいただく前に、別紙の「ご注意と保守について」をよくお読みいただき、本製品を正しくご使用ください。

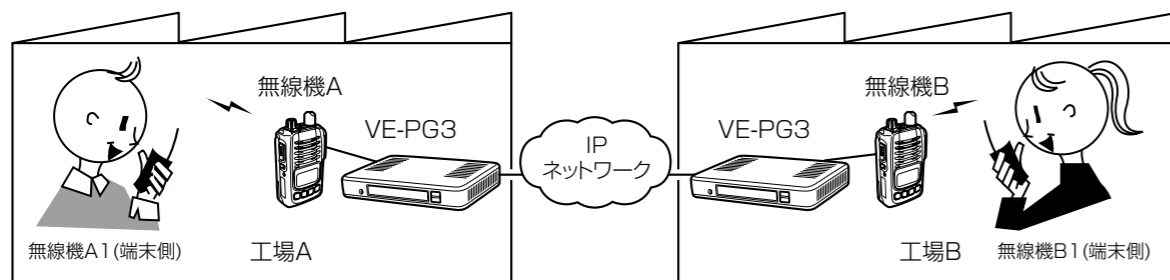
ご使用までの流れ

本製品を設定されるときは、次の手順にしたがってお読みください。



【本製品の動作モードについて】

- ◎ブリッジモード(出荷時の設定)：IPネットワークを介して無線機同士で通話する場合に設定します。
- ◎コンバーターモード：弊社製のIP電話機と無線機で通話する場合に設定します。



ブリッジモード(イメージ図)

(各機能の詳しい設定などについては、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。)

RS-PG3(監視ツール)について

本製品に接続された無線機の設置場所には、無線機の送信状態などを監視する管理者が必要です。
設置した場所に管理者がない状態でご使用になるときは、本製品と同じネットワークに接続されたパソコンからRS-PG3を起動して、監視できる環境を構築してください。
使用方法については、付属CDに収録されている説明書をご覧ください。

Step 1 必要なものを確認する

付属品について

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> ACアダプター …… 1 | <input type="checkbox"/> クッションシート …… 1 |
| <input type="checkbox"/> フェライトコア …… 1 | <input type="checkbox"/> コネクター(補修用) …… 24 |
| <input type="checkbox"/> ビス(4本)*1 …… 1 | <input type="checkbox"/> CD (UTILITY DISC) |
| <input type="checkbox"/> ご注意と保守について | <input type="checkbox"/> ご使用になる前に(本書) |
| <input type="checkbox"/> 導入ガイド① | <input type="checkbox"/> 導入ガイド② |
| <input type="checkbox"/> 保証書 | |

- ★1 弊社別売品のMB-99A(壁面取付プレート)で使用するビスです。取り付け方法など、詳しくはMB-99Aの取扱説明書をご覧ください。

CDの収録内容について

- ◎ RS-PG3(監視ツール)*2
- ◎ RS-PG3インストールガイド(PDFファイル)
- ◎ RS-PG3取扱説明書(PDFファイル)
- ◎ Virtual Serial Port(仮想シリアルポート)*2
- ◎ Virtual Serial Port取扱説明書(PDFファイル)
- ◎ Adobe® Reader®(インストーラー)

- ★2 ご使用になる前に、CDに収録されている説明書をよくお読みいただき、動作環境や注意事項などをご確認ください。

ご用意いただくもの

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 設定用パソコン | <input type="checkbox"/> LANケーブル |
| <input type="checkbox"/> アース線 | <input type="checkbox"/> HUB*3 |
| <input type="checkbox"/> 弊社製無線機*4 | <input type="checkbox"/> ご使用になる無線機の取扱説明書 |
| <input type="checkbox"/> 弊社製VoIPルーター*5 | |

- ★3 本製品は、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)の自動判別機能に対応していますので、HUBをお持ちでない場合でも、LANケーブルで本製品とパソコンを直接接続できます。

- ★4 接続ケーブルなど、本製品と無線機を接続するときに必要な弊社別売品については、下記一覧をご覧ください。

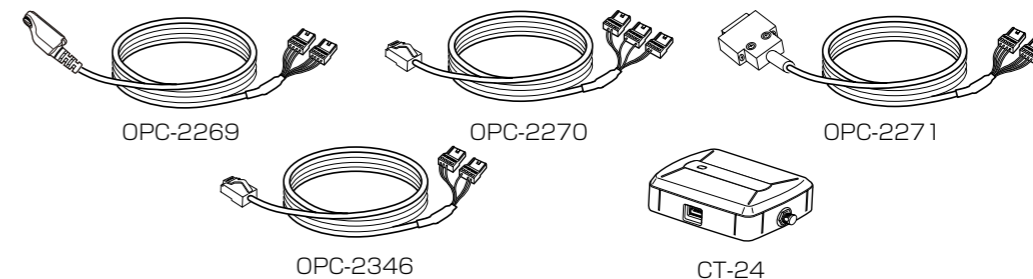
- ★5 本製品をコンバーターモードでご使用になる場合に必要です。

別売品について

(2014年10月現在)

本製品に接続する無線機により接続ケーブルなど、必要な弊社別売品が異なりますのでご注意ください。

- | | | |
|------------------|-------------------------|---|
| OPC-2269 | 携帯機接続ケーブル(約5m) | (対応無線機：IC-4800、IC-4810、IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6) |
| OPC-2270 | 車載機接続ケーブル(約5m) | (対応無線機：IC-D5005、IC-DPR1) |
| OPC-2271 | 車載機接続ケーブル(約5m) | (対応無線機：IC-MS4880) |
| OPC-2346 | 車載機接続ケーブル(約5m) | (対応無線機：IC-MS5010) |
| AD-107H*6 | 外部電源装置 | (対応無線機：IC-4800、IC-4810、IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6) |
| CT-24*7 | DIGITAL VOICE CONVERTER | (対応無線機：IC-DU5505CN、IC-DU6505BN、IC-D6005N) |
| MB-99A*8 | 壁面取付プレート | |



- ★6 本製品に接続する携帯機の電源は、弊社指定のものをご使用ください。バッテリーパック、または電池ケースで携帯機を運用すると、本製品が誤動作する原因になります。
- ★7 本製品に接続された機器や使用する音声Codecの組み合わせにより、CT-24が必要になります。(裏面参照)
- ★8 本製品を壁面や棚などに固定するときは、弊社指定のものをご使用ください。

別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。
弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じるネットワーク機器や無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

Step 2 接続する無線機を設定する

【ご注意】 無線機を本製品に接続する前に、無線機の設定を完了しておいてください。

対応無線機について

(2014年10月現在)

本製品に接続できる弊社製無線機は、下記のとおりです。

※相互使用できる端末側無線機については、ご使用になる無線機の取扱説明書をご覧ください。お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- ◎ デジタル簡易無線機(登録局) : IC-D50、IC-D60、IC-DPR5、IC-DPR6、IC-D5005、IC-DPR1、IC-D6005N*
- ◎ デジタル簡易無線機(免許局) : IC-DU5505CN*、IC-DU6505BN*
- ◎ 特定小電力 : IC-4800、IC-4810
- ◎ 特定小電力(同時通話型) : IC-MS4880、IC-MS5010

★印は、本製品で使用できるネットワーク対応のデジタル無線機です。

無線機の設定について

本製品に接続する無線機を下表のように設定します。

※通話チャンネル、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)、個別呼び出し機能については、端末側無線機も同じ設定をしてください。

無線機の設定について詳しくは、ご使用になる無線機の取扱説明書を併せてご覧ください。

設定項目	製品名		デジタル簡易無線機(登録局)					
	IC-4800	IC-4810	IC-D50	IC-D60	IC-DPR5	IC-DPR6	IC-D5005	IC-DPR1
通話チャンネル	単信1~20の任意		1~14、16~30の任意					
音量	8	12	5			7		
トーンスケルチ/ ユーザーコード(UC)	トーンスケルチを使用		ユーザーコード(UC)を使用					
ポケットビープ(PB)	ポケットビープ OFF							
個別呼び出し機能	個別呼び出し機能 OFF							
パワーセーブ機能	パワーセーブ機能 OFF						-	

設定項目	製品名		特定小電力無線機(同時通話型)	
	IC-4800	IC-4810	IC-MS5010	
単信/半復信	Sc-47			
BUSY出力設定	bu-AM (SQL対応のため)			
音量(Vol)	7 (つまみで設定)			
ポケットビープ(PB)	ポケットビープ OFF			
個別呼び出し機能	個別呼び出し機能 OFF			

◎通話音質に影響しますので、本製品に接続する無線機は、上表の値を基準に設定してください。

◎予期しない外来雑音やほかの無線機の信号で誤動作しないように、端末側無線機も同じトーンスケルチ/ユーザーコード(UC)を設定してください。

◎無線機のビープ音で本製品が誤動作しないように、本製品に接続する無線機は、ポケットビープをOFFに設定してください。

◎本製品のポート(TRX1、TRX2、EXT1、EXT2)は、個別呼び出し機能に対応していませんので、本製品に接続する無線機、端末側無線機とも個別呼び出し機能をOFFにしてください。

◎通話開始時の頭切れを軽減させるため、パワーセーブ機能をOFFにしてください。

◎VE-PG3では、複信モードに設定されたIC-MS5010は動作保証対象外になります。

IC-MS4880をご使用になる場合

本製品にIC-MS4880を接続して使用する場合は、IC-4880以外の無線機と混在して運用できません。

IC-MS4880の設定や接続方法、運用上の注意事項については、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。

デジタル無線機をご使用になる場合

本製品にデジタル無線機をネットワーク接続して使用する場合は、販売店へ無線機の設定をご依頼いただき、免許の範囲内で通信してください。

なお、本製品に接続された機器や使用する音声Codecの組み合わせにより、CT-24が必要になります。

◎コンバーターモード : デジタル無線機を使用する場合

◎ブリッジモード : デジタル無線機を接続し、G.711uコーデックを使用する場合

デジタル無線機以外(無線機や外部入出力など)を接続し、AMBE+2コーデックを使用する場合

※デジタル無線機の設定やCT-24の接続方法、運用上の注意事項については、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。

【ご注意】 本製品に無線機を2台以上接続する場合、無線機同士の電波干渉を防ぐため、下記を参考に通話チャンネルを設定し、無線機同士の距離(携帯機)やアンテナの設置場所(車載機)が近すぎないように設置してください。

無線機のチャンネル設定と設置距離について

本製品に無線機を2台以上接続する場合、チャンネル間隔、アンテナ間距離について、どちらも大きくはなすことにより、無線機の相互干渉による影響を低減できます。

	IC-D50/IC-D60 IC-DPR5/IC-DPR6 IC-D5005/IC-DPR1	IC-4800/IC-4810 IC-MS4880/IC-MS5010
IC-D50/IC-D60 IC-DPR5/IC-DPR6 IC-D5005/IC-DPR1	推奨チャンネル間隔 : 10チャンネル以上 推奨アンテナ間距離 : 5m以上	推奨アンテナ間距離 : 3m以上
IC-4800/IC-4810 IC-MS4880/IC-MS5010	推奨アンテナ間距離 : 3m以上	推奨チャンネル間隔 : 5チャンネル以上 推奨アンテナ間距離 : 3m以上

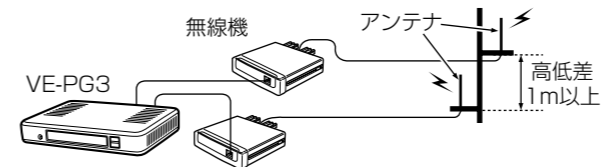
電波干渉の低減について

本製品に無線機を2台以上接続する場合、無線機の相互干渉により通信性能が劣化することがありますので、下記の方法により電波干渉を低減させてください。

アンテナの指向性を活用する

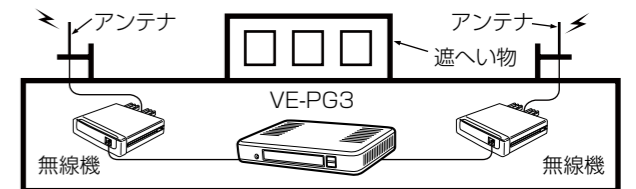
水平面に対して指向特性がない無指向性アンテナでも、垂直方向は電波が弱くなります。

2本のアンテナを固定する位置に高低差(1m以上)をつけることで、電波干渉が低減することがあります。



周囲の遮へい物を利用する

金属補強材が埋め込まれたコンクリート壁や金属製のロッカーなどで、互いのアンテナを遮るような位置に設置すると、電波干渉が低減することがあります。



Lowパワーに設定する(無線機の送信出力を変更できる場合)

アンテナの設置場所を変更しても電波干渉が低減しない場合、本製品に接続する無線機の送信出力をLowに設定すると、電波干渉が低減することがあります。

ただし、Lowパワーに設定すると、電波の届く範囲が狭くなり、場所によっては交信しにくくなる場合があります。

別紙の「VE-PG3導入ガイド①」につづく➡

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

高品質がテーマです。

A-7048W-2J-② Printed in Japan © 2012-2014 Icom Inc.

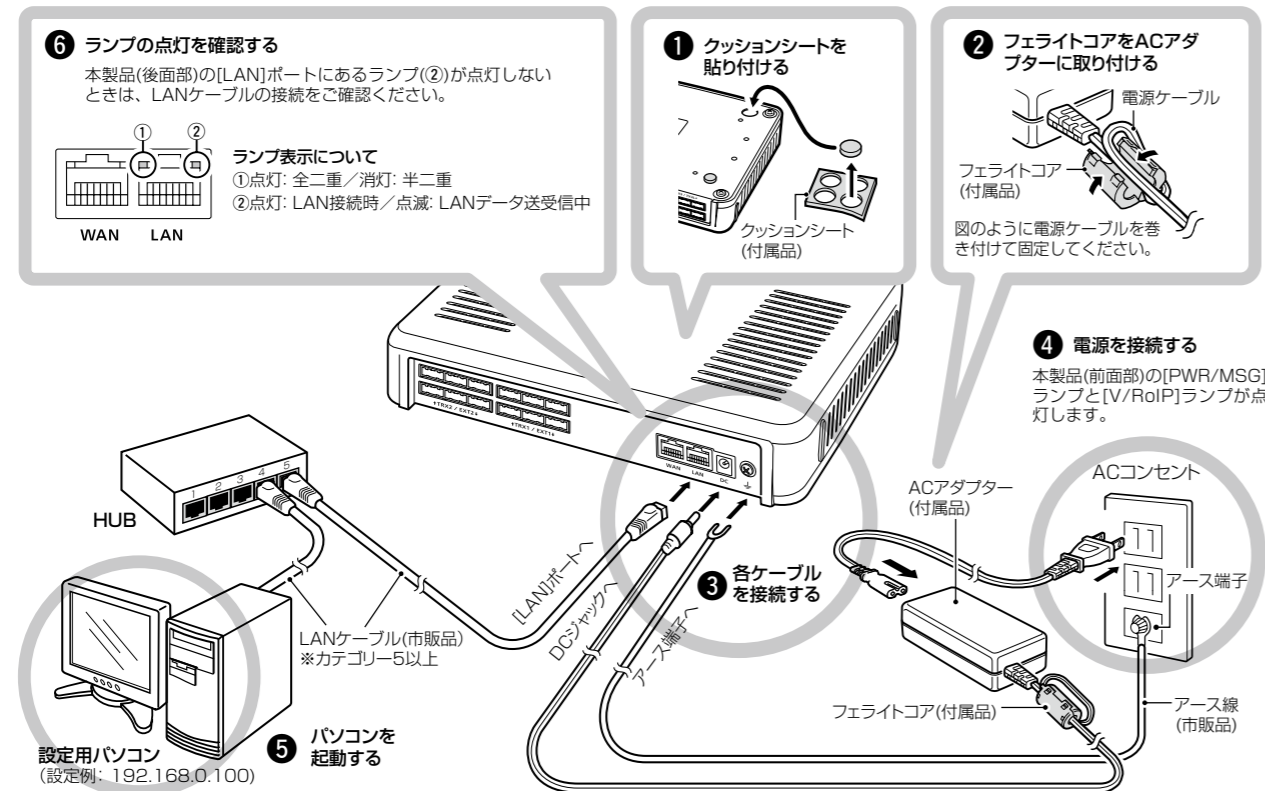
このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
本書では、ネットワークや動作モードの設定について説明しています。
本書をお読みいただく前に、別紙の「ご使用になる前に」をよくお読みいただき、本製品を正しくご使用ください。

別紙の「ご使用になる前に」からのつづきです。

Step 3 ネットワークを設定する

1 次の手順(①～⑥)で、各機器を本製品に接続します。

※出荷時の状態で接続するときは、本製品に接続するHUBと既存のネットワークを切りはなしてください。
※100BASE-TXより低速なHUBは、意図しない動作で通信に障害を与えるなど、通信速度低下の原因になりますので、できるだけ接続しないでください。
※HUBをお持ちでない場合でも、LANケーブルで本製品とパソコンを直接接続できます。



警告

本製品のアース端子は、市販のアース線を使用して、コンセントのアース端子、または地中に埋めたアース棒(市販品)に必ず接続してください。
※落雷したときの電氣的ショックの緩和、感電やノイズの回り込みを防止できます。
※絶対に、ガス管や水道管には接続しないでください。

設定用パソコンのIPアドレス

出荷時、本製品のIPアドレスは「192.168.0.1」、DHCPサーバー機能は「無効」に設定されていますので、設定に使用するパソコンには、あらかじめ、固定IPアドレス(例: 192.168.0.100)を設定してください。
※IPアドレスの設定について、詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。

出荷時のおもな設定値

設定メニュー	設定画面	設定項目	設定名称	設定値
ネットワーク設定	本体IPアドレス	IPアドレス設定	IPアドレス	192.168.0.1
			サブネットマスク	255.255.255.0
			DHCPサーバー	無効
ルーター設定	WAN接続先	回線種別設定	回線種別	使用しない
		動作モード設定	動作モード	ブリッジ
		外部入出力モード設定	接続機器	外部入出力機器
ポート詳細設定	無線機1 (TRX1)/無線機2 (TRX2)	無線機種種設定	無線機種種	IC-4810
		管理者	管理者パスワードの変更	管理者ID admin(変更不可)
			管理者パスワード	admin(半角小文字)
管理		ファームウェアの更新	自動更新	有効

Step 3 ネットワークを設定する(つづき)

2 次の手順(①～③)で、本製品に接続したパソコンのWWWブラウザから、本製品の設定画面にアクセスします。

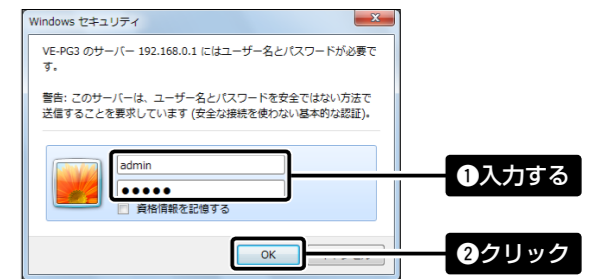
① WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに「http://本製品のIPアドレス/」を入力します。



※上図は、出荷時のIPアドレス(192.168.0.1)を入力した場合です。

② [Enter]キーを押します。
[ユーザー名]と[パスワード]を求め画面が表示されます。

③ [ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックすると、設定画面が表示されます。



不正アクセス防止のアドバイス

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせると長くて複雑なものにし、さらに定期的に変更すると効果があります。
※管理者パスワードの変更については、弊社ホームページに掲載の取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

WWWブラウザについて

Microsoft Internet Explorer 9で動作確認しています。
設定画面が正しく表示できるように、WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieは有効にしてください。
※Microsoft Internet Explorer 8以前をご使用の場合は、正しく表示できないことがあります。

3 次の手順(①～④)で、ご使用になるネットワーク環境に応じて、本製品のIPアドレスを設定します。

※ほかの機器に設定されているIPアドレスと重複しないようにご注意ください。

① 「ネットワーク設定」メニュー、「本体IPアドレス」の順をクリックします。
「本体IPアドレス」画面が表示されます。

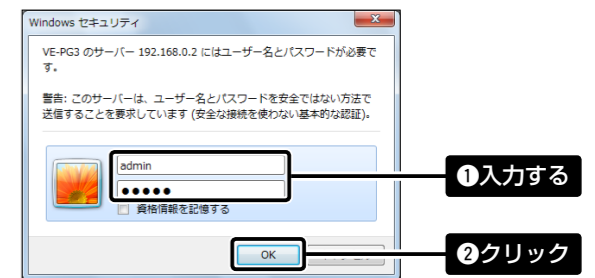
② 本製品のIPアドレスを設定して、「登録」をクリックします。



③ 〈再起動〉をクリックして、本製品を再起動します。

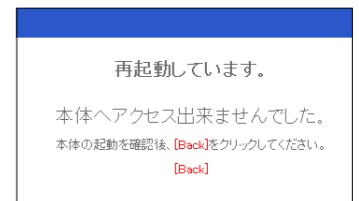


④ 再起動後、[ユーザー名]と[パスワード]を求め画面が表示されたら、[ユーザー名]欄に「admin」、[パスワード]欄に「admin」(出荷時の設定)を入力し、〈OK〉をクリックします。



IPアドレスの変更について

パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部が、本製品と異なると、設定画面にアクセスできなくなります。
手順⑤を操作して、再起動後に、下記の画面が表示されたときは、必要に応じてパソコンのIPアドレスを変更してから、[Back]をクリックしてください。



Step 4 動作モードを設定する

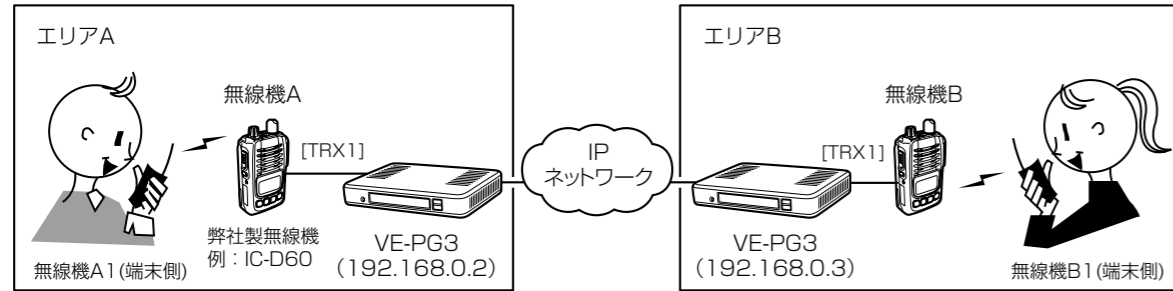
出荷時、本製品はブリッジモードに設定されていますので、運用形態に応じて動作モード、無線機を接続する本製品のポートについて、本製品の設定画面で設定します。

本書では、本製品の[TRX1]ポート(上側)に無線機を接続する場合を例として説明しています。

※本製品の動作モードや接続する無線機を変更すると、関連する設定内容が初期化されますのでご注意ください。
各機能の詳細や設定内容の保存については、弊社ホームページに掲載の取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

ブリッジモードを設定する

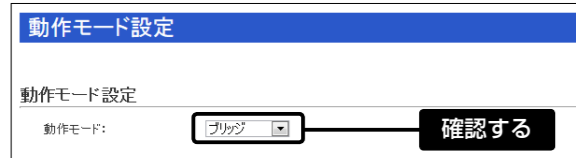
ユニキャストでご使用になるときは



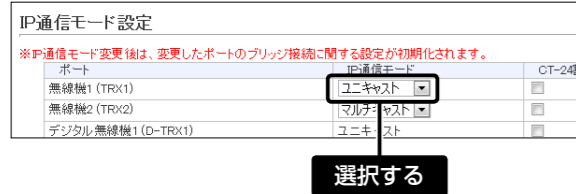
ユニキャストでの構築例(接続している特定の無線機に送信)

【設定例】エリアA側のVE-PG3を設定する場合(※エリアB側も下記を参考に設定します。)

- 1 「動作モード設定」メニューをクリックします。「動作モード設定」画面が表示されます。



- 2 「ブリッジ」に設定されていることを確認します。



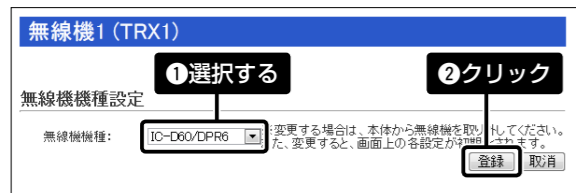
- 3 接続するポート(例：無線機1 (TRX1))の[IP通信モード]欄で「ユニキャスト」を選択します。



※表示される画面にしたがって、本製品を再起動します。

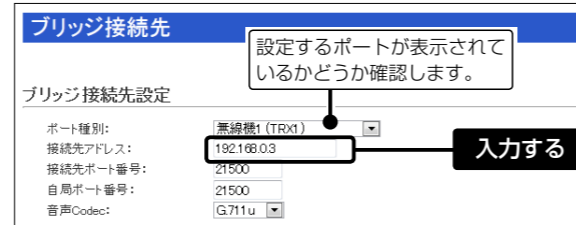
- 4 「登録」をクリックします。

- 5 再起動後、「ポート詳細設定」メニュー、「無線機1 (TRX1)」の順にクリックします。「無線機1 (TRX1)」画面が表示されます。



- 6 「ブリッジ接続設定」メニュー、「ブリッジ接続先」の順にクリックします。「ブリッジ接続先」画面が表示されます。

- 7 接続先のVE-PG3(エリアB)に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.3)を入力します。

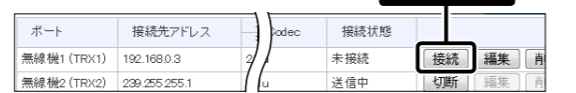


※エリアB側を設定する場合は、接続先のVE-PG3(エリアA)に設定されたIPアドレス(例：192.168.0.2)を入力します。

- 8 「登録」をクリックします。



- 9 「接続」をクリックします。



- 10 「送信中」が表示されたことを確認します。



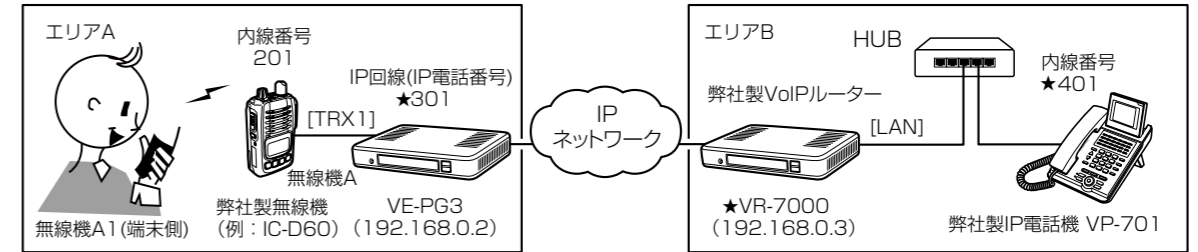
マルチキャストでご使用になるときは

出荷時、本製品の動作モードが「ブリッジ」、[TRX1]ポートと[TRX2]ポートのIP通信モードが「マルチキャスト」に設定されていますので、設定画面(上記の手順⑥)で、本製品のポートに接続する無線機を選択するだけで、ご使用いただけます。

コンバーターモードを設定する

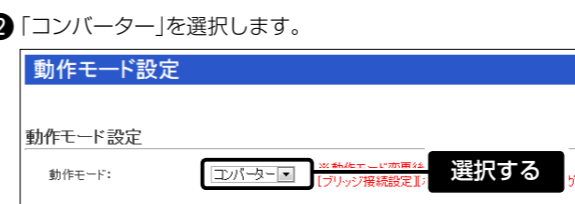
コンバーターモードでは、弊社製VoIPルーターの子機として、本製品を利用します。

★本書では、弊社製VoIPルーター(エリアB側のVR-7000)で設定する内線番号(PBX設定)やIP電話機の設定などは、完了しているものとして説明していますので、詳しくはご使用になる機器の取扱説明書をご覧ください。



コンバーターモードの構築例

- 1 「動作モード設定」メニューをクリックします。「動作モード設定」画面が表示されます。



- 2 「コンバーター」を選択します。

- 3 「登録」をクリックします。



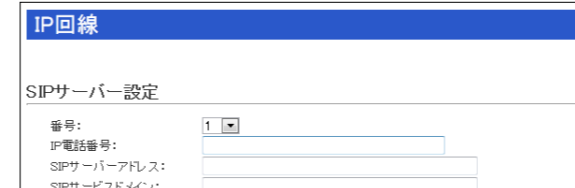
※表示される画面にしたがって、本製品を再起動します。

- 4 再起動後、「ポート詳細設定」メニュー、「無線機1 (TRX1)」の順にクリックします。「無線機1 (TRX1)」画面が表示されます。



- 5 接続する無線機(例：IC-D60/DPR6)を選択して、「登録」をクリックします。

- 6 「V/RoIP回線設定」メニュー、「IP回線」の順にクリックします。「IP回線」画面が表示されます。

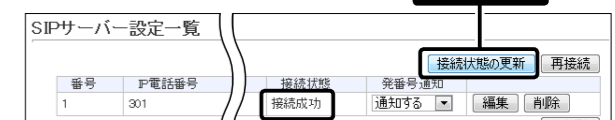


- 7 「IP回線」画面の[SIPサーバー設定]項目に、VR-7000で設定された内容を入力して、「追加」をクリックします。

[SIPサーバー設定]項目	VR-7000で設定された内容
IP電話番号	内線番号(例：301)
SIPサーバーアドレス	LAN IPアドレス(例：192.168.0.3)
SIPサービスドメイン*	内線ドメイン*
ユーザーID	内線番号(例：301)
パスワード	パスワード

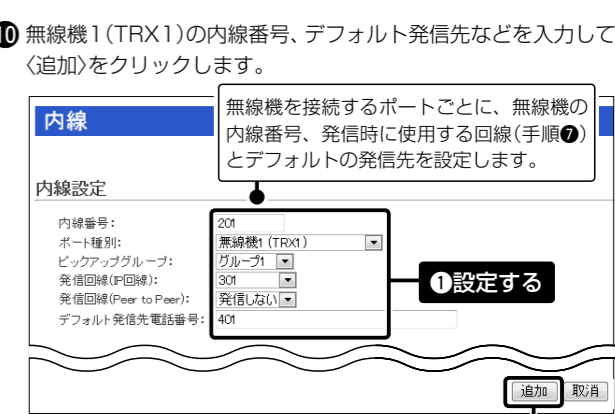
★VR-7000の内線ドメインが未設定のときは、LAN IPアドレス(例：192.168.0.3)をSIPサービスドメインに入力します。

- 8 「接続状態の更新」をクリックします。



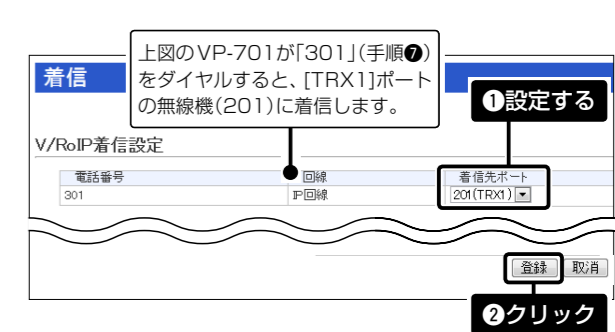
- 9 「内線接続設定」メニュー、「内線」の順にクリックします。「内線」画面が表示されます。

- 10 無線機1 (TRX1)の内線番号、デフォルト発信先などを入力して、「追加」をクリックします。



- 11 「内線接続設定」メニューの「着信」をクリックします。「着信」画面が表示されます。

- 12 手順⑦で設定したIP電話番号(例：301)に対しての着信先を設定して、「登録」をクリックします。



別紙の「VE-PG3導入ガイド②」につづく➡

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

高品質がテーマです。

A-7048W-3J Printed in Japan © 2012 Icom Inc.

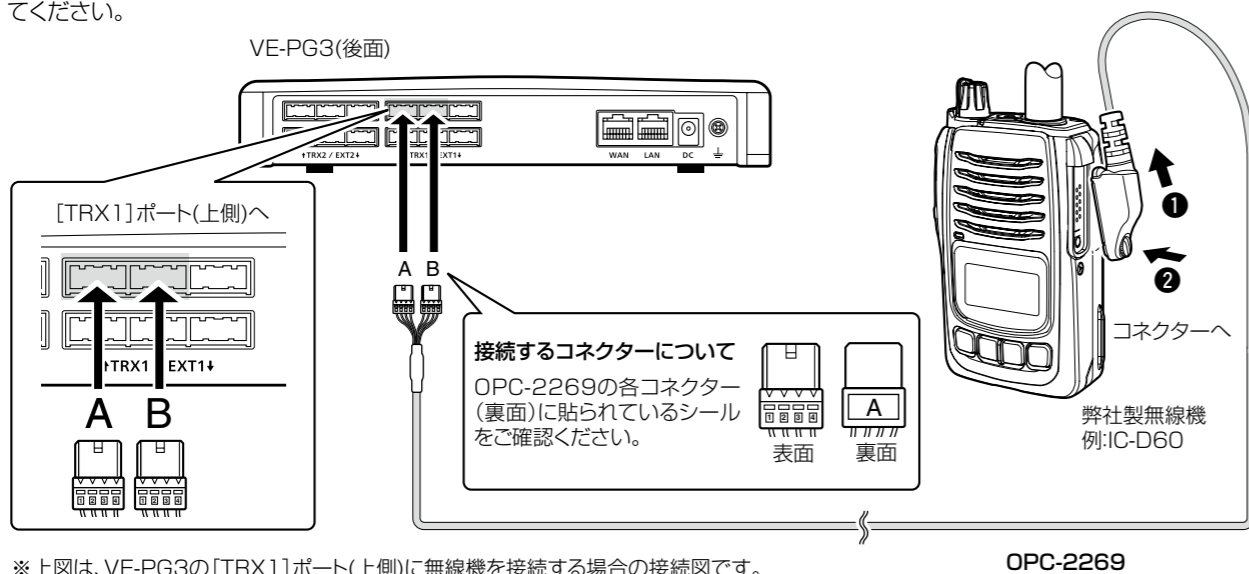
このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
本書では、無線機の接続や注意事項について説明しています。
本書とご使用になる接続ケーブルの取扱説明書を併せてよくお読みいただき、本製品を正しくご使用ください。

別紙の「導入ガイド①」からのつづきです。

Step 5 無線機を接続する

1 チャンネルや音量、送信出力など、必要な設定が完了したら、無線機の電源を切ります。
※無線機の設定について詳しくは、別紙の「ご使用になる前に」、およびご使用になる無線機の取扱説明書を併せてご覧ください。

2 VE-PG3の電源を切り、接続する各機器の電源が切れていることを確認してから、図のように別売品の接続ケーブルを取り付けてください。



※上図は、VE-PG3の[TRX1]ポート(上側)に無線機を接続する場合の接続図です。

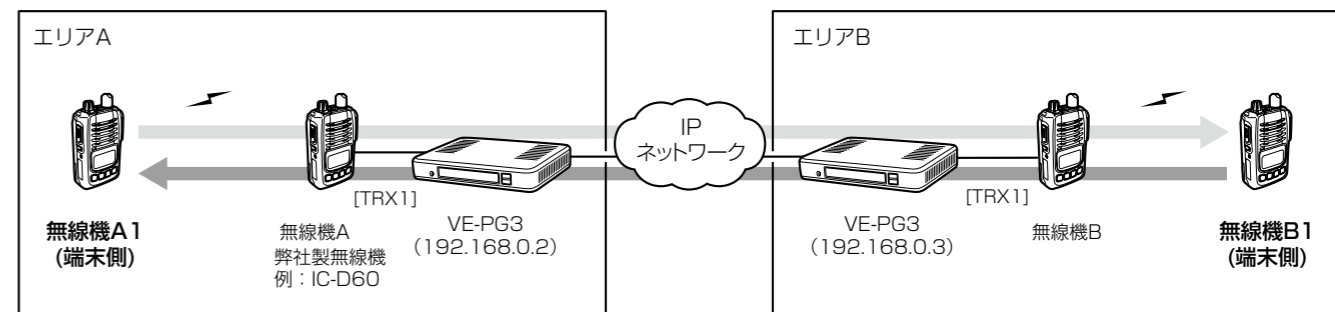
3 無線機の接続が完了したら、各機器の電源を入れます。

接続や設置についてのご注意

- ◎ 無線機を交換する場合も、上記と同様に各機器の電源を切ってから無線機を取りはずしてください。
- ◎ 接続する機種を変更する場合は、無線機の電源を切り、取りはずしてから、本製品の設定画面で接続するポートの「無線機機種」を変更してください。
- ◎ パソコンやACアダプターなどの機器の近くに、本製品に接続する無線機を設置しないでください。
ノイズの影響を受けて、無線機が誤動作することがあります。
- ◎ 無線機に向かって話す声が小さいと、強制的に通信が切断されることがあります。
このような場合は、無線機に向かって話す声を大きくして、本製品の設定画面で、無線機を接続するポートの制御設定を「VOX」にして、「音声レスシュ」の設定値を小さくしてください。
- ◎ 端末側無線機とIP電話機を近づけて使用しないでください。
- ◎ 本製品に接続する携帯機の電源は、弊社指定のものをご使用ください。
バッテリーパック、または電池ケースで携帯機を運用すると、本製品が誤動作する原因になります。

Step 5 無線機を接続する(つづき)

ブリッジモードで通話するときは



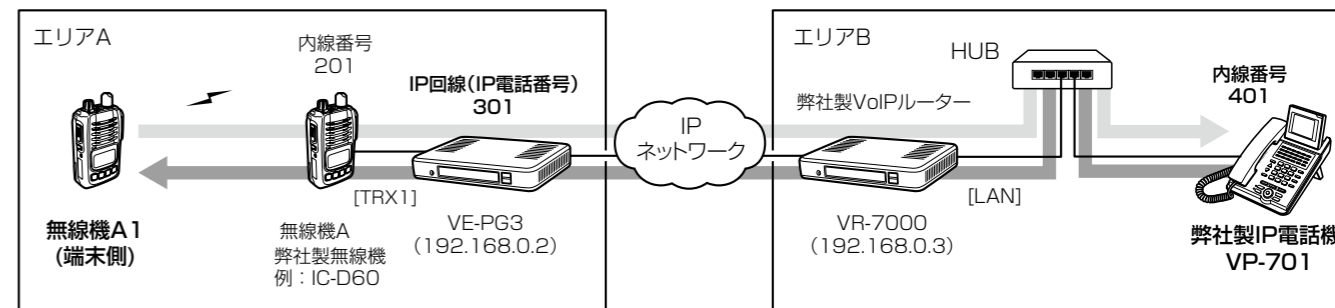
※エリアA内で無線機Aと通信するすべての無線機(端末側)は、無線機Aと同じ設定をします。

※エリアB内で無線機Bと通信するすべての無線機(端末側)は、無線機Bと同じ設定をします。

- 1 エリアA**
無線機A1の[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
送信状態になり、エリアBの無線機B1を呼び出します。
- 2 エリアA**
呼び出したあと、[PTT]スイッチをはなします。
受信状態に戻ります。
- 3 エリアB**
無線機B1の[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
送信状態になり、エリアAの無線機A1に応答します。
- 4 エリアB**
通話が終わったら、[PTT]スイッチをはなします。
受信状態に戻ります。

コンバーターモードで通話するときは

無線機A1の[PTT]スイッチを押すと、内線番号「401」のIP電話機へ発信、IP電話機からIP回線(IP電話番号)「301」をダイヤルすると、無線機A1に着信する場合を例に説明しています。



※エリアA内で無線機Aと通信するすべての無線機(端末側)は、無線機Aと同じ設定をします。

【無線機からIP電話機を呼び出す場合】

- 1 エリアA**
無線機A1の[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
送信状態になります。
- 2 エリアA**
呼び出したあと、無線機A1の[PTT]スイッチをはなします。
受信状態に戻り、エリアBのIP電話機に着信します。
- 3 エリアB**
着信中に、IP電話機の手話器を上げて話します。
無線機A1に回答します。
- 4 エリアA/B**
IP電話機側が話し終わってから、無線機A1の[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
また、無線機A1側が話し終わってから、IP電話機側が話しはじめます。

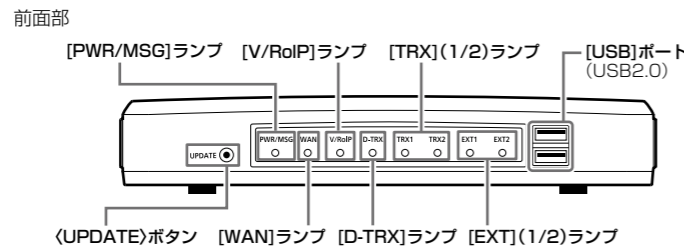
【IP電話機から無線機を呼び出す場合】

- 1 エリアB**
IP電話機の手話器を上げて、IP回線(IP電話番号)「301」をダイヤルします。
IP回線(IP電話番号)「301」の着信先に設定された「201」に発信します。
発信成功後、通話状態になってから話しはじめます。
- 2 エリアA/B**
IP電話機側が話し終わってから、無線機A1の[PTT]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。
また、無線機A1側が話し終わってから、IP電話機側が話しはじめます。

ご注意

- ◎ 電話機同士のような双方向通話はできません。
通話相手が話し終わったことを確認してから、話しはじめてください。
- ◎ IP電話機が受話器を置くと、通信が切断されます。
無線機、IP電話機ともに無音状態が約15秒*つづいても、通信が切断されます。
★本製品の設定画面で、無線機を接続するポートごとに設定を変更できます。

ランプの状態と動作 (〈INIT〉ボタン、〈UPDATE〉ボタン操作時について詳しくは、別紙の「ご注意と保守について」をご覧ください。)



ランプ	ランプ動作	コンバーターモード	ブリッジモード	
PWR/MSG	消灯	電源OFF		
	緑	点灯	電源ON	
		点滅	起動中	
	赤	点灯	—	
		点滅	—	
	橙	点灯	ファームウェア更新あり/起動時(ファームウェアロード中)	
点滅		USBメモリーにアクセス中(設定復元、およびファームウェアのバージョンアップ)		
		起動時(起動中)	〈INIT〉ボタン操作から初期化完了まで(橙/緑交互点滅)	
WAN	消灯	未接続時/接続完了するまで		
	緑	点灯	WAN接続完了時(IPアドレス取得成功時)	
		点滅	—	
	赤	点灯	—	
		点滅	認証エラー(PPPoE)/IPアドレス取得失敗時(DHCP)：タイムアウト30秒で赤点滅	
	橙	点灯	—	
点滅		—		
V/RoIP	消灯	レジスト登録設定なし/レジスト試行中	未接続	
	緑	点灯	レジスト成功時(全エントリー)	接続時
		点滅	通話中(1CH以上/発着信を含む)	
	赤	点灯	—	
		点滅	レジスト失敗時(1エントリー以上)	
	橙	点灯	—	
点滅		—		
D-TRX*	消灯	無線機未接続/待機中		
	緑	点灯	無線機からの音声受信	
		点滅	—	
	赤	点灯	無線機への音声送信	
		点滅	—	
	橙	点灯	無線機との音声送受信	
点滅		—		
TRX1 TRX2	消灯	無線機未接続/待機中		
	緑	点灯	無線機からの音声受信	
		点滅	—	
	赤	点灯	無線機へ音声送信	
		点滅	—	
	橙	点灯	無線機との音声送受信	
点滅		—		
EXT1 EXT2	消灯	入力/出力なし		
	緑	点灯	外部機器から入力	
		点滅	—	
	赤	点灯	外部機器へ出力	外部機器へ出力、かつ接続時
		点滅	—	
	橙	点灯	外部入出力使用中	
点滅		—		

★本製品にネットワーク対応のデジタル無線機を接続して使用するときには動作するランプです。
※ファームウェア更新中、および再起動時に、全点灯(橙)になります。

設定画面の名称と機能について

本製品の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
※詳しくは、弊社ホームページに掲載の取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。



① ホームページのリンク

インターネットに接続できる環境で、アイコンをクリックすると、弊社のホームページを閲覧できます。

② 設定画面選択メニュー

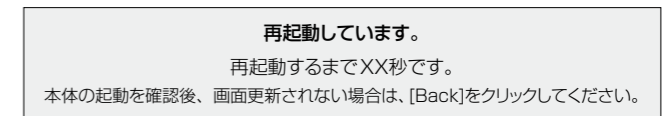
各設定画面を用途別に、メニューとしてまとめています。
メニュー名をクリックすることにより、各設定画面へのリンクを開け閉めできます。

③ 設定画面表示エリア

設定画面選択メニューで選択されたタイトルの画面を表示します。
※左図は、「ネットワーク設定」メニューの「本体IPアドレス」をクリックしたときに表示される画面です。

④ 設定ボタン

設定した内容の登録や取り消しをします。
※〈登録〉をクリックして、「再起動が必要な項目が変更されています。」と表示されるときは、〈再起動〉をクリックします。
表示された画面にしがたって操作してまます。
再起動中は、下図を表示します。



※再起動後に、設定した内容が有効となります。
※再起動が完了するまで、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックしても、設定画面に戻りません。
しばらくしてから再度操作してください。
※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

USBメモリーによる自動設定機能

本製品の[USB]ポートに市販のUSBメモリーを接続して電源を入れると、設定ファイル(本製品の設定が保存されたファイル)やファームウェアファイルをUSBメモリーから本製品に自動で読み込んで、本製品の設定復元やバージョンアップなどができます。

※USBメモリーは、本製品に付属していません。
※使用方法については、弊社ホームページに掲載の取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。



USBメモリー使用時のご注意

- ◎指紋認証型、アプリケーション認証(パスワード認証)型など、セキュリティ対応型のUSBメモリーは使用できません。
- ◎データ保護のため、必ず本製品のACアダプターを取りはずしてから、USBメモリーの接続や取りはずしをしてください。
- ◎設定復元、ファームウェアのバージョンアップでUSBメモリーを使用する場合、USBメモリーにアクセス中([PWR/MSG]ランプ橙点滅中)は、絶対にUSBメモリーを取りはずさないでください。ファイルの消失や故障の原因になります。
- ◎USBメモリーは、どちらか一方の[USB]ポートにだけ接続してください。
※2つの[USB]ポートを同時には使用できません。
- ◎USBメモリーを差し込むときは、形状と差し込み方向に注意して、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎ファームウェアを更新された場合は、正しく更新できているかどうか、設定画面でファームウェアバージョンを確認してください。
- ◎設定を復元する直前の設定値は、設定ファイル(bakdata.sav)として、本製品に接続したUSBメモリーにバックアップされます。

各機能の詳しい設定などについては、弊社ホームページに掲載の取扱説明書をご覧ください。